

昭和

SPレコードで迎れば

シンガポール陥落

SPレコード収集家 ■ 城内 實

(一)

前回は昭和十六年十二月八日のハワイ海戦に関するレコードを紹介したが、陸軍は真珠湾攻撃と平行して開戦と同時に南方において三つの大作戦を展開した。一つは香港攻略、二つ目は比島攻略、三つ目は英國領のマレー半島及びシンガポール攻略である。紙幅の限りもあるので今回はシンガポール攻略についてのみとりあげることとする。

(二)

の前後に一度に亘り参謀本部作戦課長の要職にあった人物である。戦後GHQの歴史課で大東亜戦争の史料編纂に携わったことでも有名である。

同著においてシンガポール陥落は次のように記されている。

「かくて、上陸以来作戦日を重ねること五十余日、この間勇戦敢闘、一千余軒の敵中突破を遂して、今待望のシンガポールを俯瞰し、右から第十八師団、第五師団、近衛師団の精銳水道の高地に轡を並べ、牙城攻略の準備に着手した。」

ここにあるように、マレー作戦においては第五師団と佐美支隊等が大東亜戦争勃発と同時にパタニ（泰領）、コタバルに上陸、約一千キロのマレー半島を縦断して背後のジョホールバル

からシンガポールを攻略した。

(三)

なんとかジョホールバルまで到達した帝国陸軍は「牙城」シンガポールを目指して着々と準備をしていた。その模様は服部の「大東亜戦争全史」では次のように描かれている。

「攻撃準備は、着々と進捗した。命令下達より一週間、正に血の滲むような努力が続いた。鉄道隊及び工兵隊の鉄道及び道路の修復作業、後方部隊の常々たる作戦準備は、特筆さるべきものであろう。」

二月九日、三方向から渡河した各地で英印軍と戦闘を繰り広げた。戦いはブキテマ高地の争奪戦にかかっていた。その間、

数年前たまたま神田の古書店で服部卓四郎著「大東亜戦争全史一〇四」（鱗書房、昭和二十八年刊）を廉価にて入手した。（なお、服部卓四郎は東條首相兼陸軍大臣の秘書官を務め、そ

入れがあった。少し長くなるが服部は次のように記している。

「頑強に抵抗した敵も、遂に力竭きて我が猛攻に屈し、二月十五日午後一時、英軍軍使ニュビキン代将、我が第五師団正面に参謀杉田一次中佐を前線に派遣してこれと応接させた。

英軍軍使は、総督は停戦交渉のため日本軍司令官の来邸を希望している旨を申出た。杉田参謀は軍使に対し、降伏意志の有無を質したが、彼は明言を避けた。我方は、貴方に降伏の意志なければ、これ以上交渉の要なしと回答し、降伏条件についての書き物を手交し、若し英軍に降伏の意志あれば、この条件を受諾し、全条件の実施を部下軍隊に命じたる後、英軍司令官自らブキテマ道路上我が第一線に來りて、降伏を申出られたき旨を明かにした。（中略）

次いで英軍司令官パーシバル中将、我が前線に來り、山下奉文軍司令官は同日午後七時ブキテマ北方約一粍フォード工場に

おいてこれと会見し、午後七時五十分無条件降伏を確認し、「降伏に関する回答書」に署名した。軍は直ちに各部隊に攻撃中止を命じた。

シンガポールは遂に陥ちた。

百年の牙城潰えた歴史的事実は別として、戦争遂行のための戦略態勢は、ここに一大転機を画し、印度洋の門戸は西に向い大きく開かれた。』

(四)

前回紹介した「勝利の記録」では、山下・パーシバル会見の模様が録音されているが、この会見では山下がイエスかノーかと強く迫つことになつてゐる。実際はそれほど強圧的な態度ではなくつたと山下将軍は周囲に語つたとされている。

先帝陛下は、翌二月十六日に次の勅語を賜つた。

「馬来方面ニ作戦セル陸海軍部ハ緊密ナル協同ノ下ニ困難ナル海上護衛並輸送ト果敢ナル上

陸作戦トヲ断行シ炎熱ニ耐ヘ瘴癪ヲ冒シ長驅進撃隨所ニ勁敵ヲ

破り神速克ク新嘉坡ヲ攻略シ以テ東亞ニ於ケル英國ノ根拠ヲ覆滅セリ 肪深ク之ヲ嘉賞ス』

(五)

シンガポール関係のレコードは比較的多く発売された。

その代表格は、フランス帰りのピアニストで「空の神兵」で有名な高木東六が作曲し、昭和十七年四月に日本ビクターから発売された「星港撃滅」である。

(この曲の作詩は佐伯孝夫、歌は柴田睦陸。裏面は波岡惣一郎、小畠実が歌う「シンガポール陥落の歌」。高木東六氏は今なお御健在である)。「星港撃滅」の一一番及び三番の歌詞は以下の通りである。

マレーを南へ馳せくだる
見よ堂々の 日章旗
シンガポールを陥さずば
再びは見じ 桜花

難攻不落を 誇りては
そもそも謀略を こととせし
シンガポールの命盡きて
米英陣に 春寒し



おお ほがらかな南の海
揚る日の丸

君も泣け ぼくもうれし泣き

勇みおどる血潮

東亜の嵐呼ぶ

勇みおどる血潮

た昭南島」(岡晴夫)、「昭南島の

朝風」(キング合唱団)、ポリドー

ルは「シンガポールだより」(田

端義夫)、「シンガポールに凱歌あ

がる」(合唱)、また、ティチクか

らは「シンガポール陥落の歌」、

「昭南島初だより」(いずれも東

海林太郎) や「牙城陥落」等、

総じて明るい曲調のレコードが発売されたのであつた。(続く)